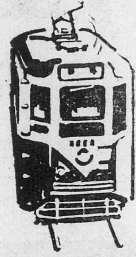


鉄道ピクトリアル

1961年2月号 Vol. 11 No. 2

〔東武鉄道特集号〕



カラー写真「上り特急おじか」
表紙「古河付近のロマンスカー」

グラフ

| | | |
|-------------------------|---|----|
| 新旧交代の「はつかり」 | 編集部 | 7 |
| マラヤの鉄道 | 吉田 嘉男 | 8 |
| 東武創業の花形蒸気機関車 | 白井 茂信 | 10 |
| 日光軌道の女王 | 宮沢 孝一 | 33 |
| 東武の蒸気機関車 | 宮沢孝一・山本明弘 | 34 |
| 晩冬の武州をゆく | 宮沢 孝一 | 36 |
| 東武の輸送主力 | 野尻泰彦・柴橋達夫・高松吉太郎・久保敏・花上嘉成・青木栄一・阿部一紀・山内 嵩 | 38 |
| 東武の電気機関車・気動車 | 吉川文夫・道村博・宮沢孝一・青木栄一 | 40 |
| 裏日本の豪雪に拾う | 瀬古竜雄・北陸中日新聞 | 63 |
| トピックフォト | | 64 |
| わだいのくるま (87) 御座敷客車スハ88形 | 久保田博・佐竹保雄 | 66 |

記事

| | | |
|-------------------------------|-----------|----|
| 今月の話題「未曾有の豪雪で裏日本の国鉄各線4日間マヒ状態」 | 3 | |
| 東武の使命と新車の構想について | 根津嘉一郎 | 4 |
| 明治の頃の東武 | 高松吉太郎 | 5 |
| 東武鉄道にのぞみたい | 杉田 宗一 | 6 |
| 新ロマンスカーについて | 石橋 宏 | 11 |
| 東武鉄道の線路概要 | 中村精一・豊島 勉 | 15 |
| 多彩をきわめた気動車群 | 中川 浩一 | 23 |
| 東武の電気機関車 | 吉川 文夫 | 26 |
| シンガポール・クアラルンプール間試乗記 | 吉田 嘉男 | 29 |
| 鉄道の話題 | | 32 |
| ピーコックの園に咲いた花 | 白井 茂信 | 41 |
| 東武鉄道の電車 [1] 私鉄車両めぐり (44) | 青木栄一・花上嘉成 | 45 |
| 速度と輸送力の変遷 | 原 豊 | 53 |
| 車両検修施設の概要について | 飯島 環 | 56 |
| 大雪害速報 | 瀬古竜雄・西脇 恵 | 58 |
| 質問に答える | | 59 |
| 読者短信 | | 61 |
| 車両の動き | | 67 |
| 12月のメモ帖, TTKだより, 後部車から | | 68 |

今月の話題

未曾有の豪雪で裏日本の国鉄各線4日間マヒ状態

12月26日から裏日本一帯を襲った寒波は猛吹雪をもたらし、北陸本線をはじめ信越線・上越線ほか、各支線に列車の立往生、通信障害、転てつ器の転換不能が続出、国鉄の年末年始の輸送は大きな支障をきたし、国鉄史上初の大雪害事故、と呼ばれる事態が発生した。このため、国鉄では1日本社に異例の「雪害対策本部」を設置、総力を投入して除雪・救援につとめた結果、3日から各線とも列車は動き始め4日には約70%を復旧、苦斗10日間、6日からほぼ平常に復するに至った。

28日から3日までの7日間における各地の降雪量は累計米坂線羽前沼沢が320cm、信越線関山330cm、直江津310cm、塚山480cm、新津150cm、長岡405cm、大糸線小滝380cm、北陸線金沢で255cmにのぼりわずか1週間で昨年1年間の累計を上回るほどの豪雪をみたもので、除雪陣も新鉄局でラッセル34両、ロータリー4両、金鉄局でラッセル21両、ロータリー2両、さらに新庄・福島からロータリー各1両の応援をえるという、これまた機械除雪の総動員を行なったが、降りつづく雪に全くお手あげの格好となり、旅客列車の運休100本、貨物列車に至っては28日から3日まで実に794本(減送21万トン)に達し、このために4日朝現在の貨車の抑留車は6000両に達したといわれるのをみても、まさに国鉄史上最大の雪害事故である。

こんどの豪雪で国鉄の受けた損害(除雪費・切符の払い戻しをふくむ)は約5億円にのぼるとみられる。

表紙「古河付近のロマンスカー」

宮松金次郎

36-1-8 新古河駅付近(栃木方)
マミヤシックス オートマツト2型マミヤ・セコール 1:3.5 F=7.5cm f8 1/500
フジネオパン SSS